

彩り

春号  
2022年度

ロゴマークが  
できました!

埼玉  
志

一般社団法人  
埼玉県作業療法士会

「挑戦」

- 特集「一步、飛び込む勇氣。当事者が語る挑戦への「原動力」」
- ねえ、きいて! 「患者さんの『挑戦』を支援する」
- 教えて SAOT!! 「部局・委員会について教えて!! 第6弾」
- 埼玉県作業療法士会ロゴマークデザイン結果発表 など

No.07



# 一步、飛び込む**勇氣**。

## 当事者が語る挑戦への「原動力」

『人生はどちらかです。勇氣をもって挑むか、棒にふるか。』  
——これは視覚障害・聴覚障害の重複障害者でありながら世界各地で社会福祉活動を行ったヘレン・ケラーの言葉だ。彼女は家庭教師のサリバン先生に出会ったことで勇氣をもって挑むことを教わった。何かに挑戦するということはとても勇氣がいることだ。その初めの一步を自分の力で踏み出せる人もいれば、誰かの言葉で踏み出せる人もいる。  
2月某日。我々は左片麻痺の当事者であり、養成校を中心に講演者として活動されている倉持氏からお話を伺う機会を得た。彼の人生は、まさに今号のテーマである「挑戦」という言葉を体現していた。彼の知らない世界に踏み込む勇氣、その原動力とは一体なんなのか。

——本日はよろしくお願ひします。まずは倉持さんについて教えて下さい。

はい、よろしくお願ひします。僕は左片麻痺の当事者です。2015年3月に自宅の2階で脳出血を発症して救急搬送されました。その後、回復期病棟がある病院に転院しリハビリを受けました。2018年6月、株式会社日本経済新聞社に復職して、今は週3日勤務で、それ以外はリモートで行っています。リハビリは週3回訪問リハビリを受けています。ざっくりですが、こんな感じです。

——倉持さんは作業療法士（以下、OT）の先生方とお知り合いが多く、養成校の授業や講義などにご協力いただいています。何かきっかけはあったのですか？

そうですね…自分の当事者という経験が未来ある学生さんのために少しでも役に立てればいいと思って。最初はある養成校のオープンキャンパスに自ら出向いて…売り込みって感じかな。そこで出会ったOTの先生に自分の現状をお話して、何か協力することはできないかと相談したんだよね。それから講義や授業などで関わらせてもらうようになって。それがきっかけですね。あと、OTの先生から（県士会主催の）研修会の話聞いて、興味があったから参加させてもらったんだ。そうしたら、これが面白くて！やっぱり（自分の仕事と）分野が違うから尚更ね。そこからいろんな研修会に参加したり養成校に出向くようになって、今に至ります。

### ■ 倉持 隆（左片麻痺当事者）

51歳。1970年4月生まれ。草加市在住、家族4人暮らし。要介護1。障害者第1種1級。脳出血を発症し左片麻痺となる。後、休職を経て復職。現在、週3日の勤務をされながら、OTを始めとするセラピストの養成校での講義に登壇されるとともに、研修会などに積極的に参加され、活躍の場を広げられている。

——当事者となって間もない中で他者のことを考えられるとは…倉持さんの心の強さを感じますね。ちなみに、当事者になる前、OTの存在はご存じでしたか？

あー…知りませんでした（笑）。

——入院中のリハビリで初めて知ったということですか？

そうですね、回復期の病院で知りました。急性期の病院では理学療法士（以下、PT）さんと、当時失語症と摂食障害だったので言語聴覚士（以下、ST）さんが関わってくれていました。なので、回復期の病院に来て初めてOTさんを知りました。

——そうだったんですね。今までOTを知らなかったにもかかわらず、なぜOTの養成校や研修会で講演をしようと思ったのですか？

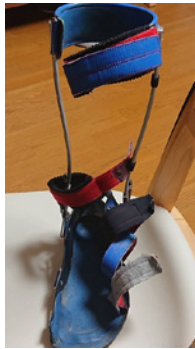
そうだなあ…今でもそうだけど、すごくOTの人に助けられたんだよね。当時、僕はとにかく歩きたかったんですよ。社会復帰するためにね。でも、その時のPTさんが慎重派な方で、なかなか歩かせてくれなかったんですよ。退院日が決まっていたのに、外も歩けない、見守りで歩くことも出来なかったんです。週1回、担当医の歩行状態を見るテストがあったんだけど…PTさんから（歩いても良いという）許可が出なかったんです。「なんで僕は歩かせてもらえないんですか」って思い切って聞いてみたら、「もっと綺麗にしっかり歩いてほしいから」って言われてね…。今考えればその時のPTさんの気持ちも分かるんだけど、当時とにかく歩きたかったからね。そんな時に、OTさんが言ってくれたんですよ、『倉持さんは退院が決まっているからもっと歩かせたほうがいい』って。それを看護師さんや担当医にも話してくれたんですよ。——それから僕の中でOTさんとの信頼関係が深まったと思います。僕としてはとにかく社会復帰がしたかったものですから。でも、自分は車椅子だし歩けもしない、退院後は訪問リハビリの人に頼っていくしかないとか…いろいろ逆算して考えてた。とにかく歩きたかった——。そんな時に耳を傾けてくれたのがOTさんだったんだよね。あと、僕は身の回りのことも自分でやりたかった。洋服は…ズボンで履きたかった。それらのやり方を基礎から教えてくれたのもOTさんだったんだよね。OTさんのことはとても身近な存在に感じたんだ。『社会復帰をする上で大切な人なんだな』と率直に感じました。

——素直に嬉しいです。倉持さんを通じて、当事者の方の生の声というか、ニーズが聞けたように思います。

### ——倉持さんは下肢装具を使用されているんですね。

下肢装具は外歩きと職場では着けてますけど、家の中では外してます。拘縮や内反はありますけどね。

…そういえば、こんなことがありました。当時の自分は、肌にこういった物を身につけることに抵抗がありました。だからセラピストの先生に聞いたんです。「装具を着けることのメリットはなんですか。」と——そうしたら『履いてみれば分かります！』というようなことを言われて…。それ聞いて「絶対履きたくない」って思いましたね。こういう言い方は乱暴的なので良くないと思うんです。セラピストは“なぜ装具を履くのか”ということをきちんと理解していないと、患者さんにその良さを伝えられないと思います。



▲倉持さんが普段着用している下肢装具。カラーリングは倉持さんのこだわり。

——そんなことがあったんですね。そのセラピストの先生も倉持さんの為にいろいろ考えていたかもしれませんが…それが相手に伝わらなければ信頼は得られませんよね。

僕もそう思います。

——復職や養成校での講演、研修会への参加など何事にも『挑戦』し続けている倉持さんですが、「諦めたこと」はありますか？

そうだなあ…諦めることは自分の意に反していることなので今まで諦めたことはなかったんですけども、実はここ2ヶ月の間に1つありまして。

——それは一体？

『車の運転』です。僕は回復期の病院を退院してから、どうしても車に乗りたかったので埼玉県警運転免許センターの試験場で臨時適性試験を受けました。適性検査を合格すれば車を改造しなくても運転できるから、2016年からずっと乗っていたんだけど…。最近、花粉症でくしゃみをすると反動で手がこう…意図せずハンドル握っちゃったり、(麻痺側の)左手だけじゃなくて利き手もブレたりとかして危ない場面があったんだ。家族から「せっかく回復して社会復帰したのに車で…」という言葉もあって、運転しなくなったね。それが51年の人生で初めてのことで。家族を守る為でもあるし、今は息子も娘も運転できるようになったし、そこにこだわる必要はないのかなって考えてね。あ、免許証はまだ携帯しています。いろんな証明に役立つので。まだまだ更新できる範囲でゴールド免許取ってほしいかな、と思ってますよ。

——車の運転以外で諦めたことがないって、凄いです。

あ、あと1つあった、喫煙。親父が他界した時に、遺言ではないけど「たばこは良くないよ。」って。だから止めた。——仕事とか、そういったことは絶対に諦めない。やればできるっていう信念があるので。ですから、僕の中ではいつの日も『挑戦』。今は2025年に控えた要介護認定調査に向けて挑戦をしていて…今は要介護1なんだけど、次の認定調査までの3年間を有効的に使ってほしいというのが挑戦です。個人的には要介護、要支援、自立と変わっていくものだと思うので…3年後は要支援になっていると仮定してるんだ。で、まずは週5日勤務を目指す。

これは簡単なことじゃなくて…健常者の頃より精神的にも肉体的にも3倍疲れるんですよ、実際。だから3年後、要支援になった時に体の負担を少しでも軽減するために休憩中の過ごし方だったり業務の組み立て方をね、効率的にできる部分は今から変えていく。訪問リハビリは今より回数減ると思うから、自分の体をどうコントロールしていくのか、セラピストの先生や職場の同僚なんかにも相談して、フルの勤務になっても疲れにくい体にチェンジしたいな。職場の人の中には、僕を気遣って「今のまま週3日の勤務でもいいんじゃないか」って言う人もいるんだけど。でも実際、必要性の高い業務は出社しないと出来ないし、そういう業務を僕に担ってほしいって言う人がいる限りは応えたいんですよね。『必要としている人の力になりたい』、その思いの方が勝ってますね。

——どんな時も前向きなお考えですが、倉持さんは障害を負って落ち込んだりはしなかったんでしょうか？

落ち込んでないことはないですよ。片手が使えないわけですし。でも、病院で僕よりも症状が重い人を何人も見てきて…。当時、入院中によくお菓子をくれる片麻痺のおばさんがいてね。その人とはいろんな話をして、すごく優しい人だったんだ。ある時、そのおばさんに乳がんが見つかった。おばさんは「私はきっともう歩けないと思う。私には分かるの。だから私が叶わなかった分も…」って言うんだ。僕はそんなことないって言ったんだけど——それから1ヶ月後くらいに亡くなった。…今でも鮮明に焼き付いているんだよね。僕もなかなか歩けなかったし、当時は車いすだったし。でも僕はその人の『歩きたかった』という想いを受けて、頑張って練習したんだ。そこまで背負い込むことじゃないかもしれないけど、僕はそうは思わなくて。病気になって落ち込んだ自分もいたけど、一拍置いて考えるんですよ、「落ち込んで良いことあるのかな」って。結局、上向かないと空は見えないし、地面ばかり見ても何も世界は広がらないなあと思ったりして。家族、亡き父、会社の仲間…そういった人たちの為にも、もう一花咲かせてやろうって気持ちが強かったなあ。僕には落ち込んでることを抹消しちゃうくらいの『鼓舞する力』が根底にあると思うんです。

——最後の質問になりますが、その挑戦への『原動力』は何ですか？

難しいなあ、なんだろうなあ…「感謝」「努力」…もだけど、「親の教え」かな、一番は。父親の『とにかくチャレンジしろ』っていう言葉かな。

——倉持さんの信念はお父様譲りだったんですね。

そうそう。DNAだね、きっと(笑)

——この度は、素敵なお話をありがとうございました。

こちらこそ、ありがとうございました。







## 「患者さんの『挑戦』を支援する」

- 報告者 -

西部総合病院  
作業療法士 永山 麻奈美さん

わたしは現在、ケアミックス型の病院の回復期リハビリテーション病棟で働いています。入院している患者さんたちにとって、日々の生活のすべてが『挑戦』の連続で、わたしは作業療法士として、その患者さんたちの『挑戦』をサポートしています。

具体的には食事やトイレ、更衣、入浴、家事動作、趣味活動などです。リハビリ中、病棟の中のお風呂場で入浴動作練習を兼ねて実際に湯船に浸かって頂くと、ほぼすべての患者さんの表情はほぐれ、ほっとしたような笑顔を見ることができます。そんなとき、自分自身も癒やしを感じさせてもらっています。

これからも患者さんの声や気持ちに耳を傾け、患者さんの『挑戦』をサポートし、入院生活の中の癒やしを提供できる存在でいたいな、と思っています。



わたしが  
永山 OT です！



### ▶ 趣味：

日記を書くこと  
おいしいものを食べること

### ▶ 挑戦したいこと：

1ヶ月に1冊小説を読み切ること

### ▶ 最後にひとこと：

ものごとを明るく前向きにとらえて、充実した日々が送れるよう心がけていきたい  
と思います。

埼玉県作業療法士会ロゴマークデザイン

# 結果発表



一般社団法人  
埼玉県作業療法士会



## 最優秀賞

しろくまさん  
(県士会員)

- 作者コメント -

「埼玉県の作業療法士」と見てすぐ分かるように、埼玉とOTの文字を組み合わせせて作りました。文字の色は、自然豊かな埼玉県をイメージし緑と、生活・人生を豊かにする楽しいリハビリからイメージしOTはオレンジにしました。文字は、全体的にカーブさせてどこを見ても笑って見えるような柔らかい感じにしました。また、ところどころのリハビリである作業療法から、「埼」は大のところがカラダ、「玉」のところは作業療法をしている時に、えくぼが出ちゃうような心から笑顔になってほしいという思いを込めて作りました。



一般社団法人埼玉県作業療法士会

ふうちゃんさん 作品  
(一般)



アイコンさん 作品  
(県士会員)



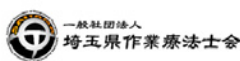
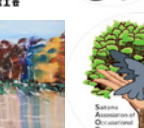
優秀賞  
SAOT  
Saitama Association of Occupational Therapists  
埼玉県作業療法士会  
小池 祐士さん 作品  
(県士会員)



ぺっちゃんさん 作品  
(一般)



一般社団法人  
埼玉県作業療法士会  
SAITAMA Association of Occupational Therapists  
浦木 敦史さん 作品  
(県士会員)



2022年3月、埼玉県作業療法士会ロゴマークデザインの公募を行いました。応募作品数は計50作品、総勢25名の方々にご応募いただきました。厳正なる審査の結果、最優秀賞、優秀賞は上記の通り決定いたしました。

ご応募いただいた皆さま、素敵な作品をありがとうございました！

### 学術部機関誌編集委員会

#### ①なにをする部・委員会ですか？

埼玉県作業療法研究の刊行が機関誌編集委員会のおもな仕事です。県の学会の抄録を掲載するので、発行の時期は学会の開催時期の直前になります。投稿の締切は設けず刊行に間に合う号に掲載することになっています。

#### ②メンバーはどれくらいいますか？

部員は8名です。機関誌編集委員会の部員は全員が大学の教員で、おもな仕事は投稿原稿の査読になっています。

#### ③アピールポイント？

2021年の刊行は20号という節目に当たりました。今後も埼玉県士会会員の皆様の発表の場であることを希望しております。昨年から医中誌に論文の題名が登録され、検索するとヒットするようになりました。

#### ④最後になにか一言!!

投稿のご要望があれば編集部まで遠慮なくお問い合わせください。症例研究や自助具の報告は実践研修という形で投稿可能です。日ごろの成果を形にしてみませんか。みなさまの投稿をお待ちしております。

### 訪問リハビリテーション振興委員会

#### ①なにをする部・委員会ですか？

埼玉県内において訪問リハビリテーションを知ってもらい、盛り上げていく委員会です。また、リハビリ三団体訪問リハビリテーション実務者研修会を理学療法士会および言語聴覚士会とコラボして企画・運営しています。

#### ②メンバーはどれくらいいますか？

現在、10名です。訪問リハビリ事業所や総合病院・介護老人保健施設等で勤務されている作業療法士が在籍しています。

#### ③アピールポイントは？

年に1回の訪問リハビリテーション振興委員会主催の研修会では、『訪問あるある』をテーマに訪問業務でよく遭遇する課題を取り上げています。毎回、訪問業務をされている作業療法士以外にも病院および施設等で勤務されている作業療法士も多く参加されています。また前述したとおり、県内のリハビリ三団体で年に2回のBASICコースとADVANCEコースを開催しています。こちらも修了証付きの救命救急実技講習会や三団体のシンポジストによる実践報告、アンケートで多かったテーマでその分野出活躍する講師をお招きして研修会を開催しています。

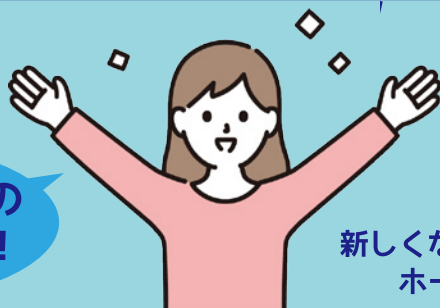
#### ④最後になにか一言!!

訪問リハビリテーション振興委員会はこれからも訪問リハビリの魅力を発信していきます。当委員会では、訪問業務をされている方はもとより病院や施設等で勤務されている作業療法士を大募集中です。今後とも宜しくお願い致します。

## 埼玉県作業療法士会のホームページが新しくなりました!

知りたい情報が  
探しやすい!

研修会・講演会の  
情報が見やすい!



会員に便利な  
機能がたくさん!

新しくなった埼玉県作業療法士会の  
ホームページを見てみよう! →







## ～ 近況報告 ～

最近、オンラインで介護支援専門員実務研修に挑戦しています。多職種でグループワークをする中で、「リハビリは何となく分かるけど、作業療法士が実際に何をしているかはよく分かりません」と言われることがありました。実際の業務や経験を紹介し、グループとして一緒に関わる中で徐々に伝わり、個々の生活や人生に寄り添い、多様性のある作業を用いて活動・参加を支援する視点は作業療法士の強みであると感じました。

様々な方のご協力をいただきながら広報誌「彩り」はおかげさまで1年半を迎えることができました。これからも「作業療法士はこんな仕事です」と多くの方々に作業療法の魅力や経験を伝える広報誌となるよう、挑戦し続けていければと思います。

近森

先日まで学生が臨床実習に参加してきました。コロナにより途中から学内実習になった学生も数名いましたが、オンラインで臨床OTより直接フィードバックをして頂き、たくさんのご協力があり、終わることができました。また4月から次の実習が始まります。様々な経験を積めるよう、早くから積極的に取り組んできてほしいと願っています。

そして今年は県士会の活動に学生を巻き込んで、盛り上げていきたいと思います！！  
よろしくお祈りします。

広瀬

／みなさんの投稿お待ちしております！／

## ★ 各コーナーの募集要項 ★

### ●ねえ、きいて！（作業療法実録）

作業療法士がみなさんに送る、「わたしはこんな作業療法をやってるよ！」というお話を募集しています。

### ●私の声（作業療法体験談）

今でも昔でも、あなたの作業療法の思い出を聞かせてください。きっと、それは誰かの励みや喜びになるでしょう。

### ●OT ギャラリー（作品投稿コーナー）

作業療法の中で制作した作品、趣味で作った作品…あなたの『自慢の一品』を大募集！表紙に選ばれるかも！？

＜＜投稿フォームで応募！＞＞

QRL または URL から投稿フォームにアクセス！必要事項を入力しご応募ください。

【 <https://business.form-mailer.jp/fms/b631815e129531> 】

※投稿フォームで応募後、広報部よりメールにてお返事させていただきます。

＜＜お問い合わせ＞＞

投稿をはじめ、広報誌に関してなにかございましたら、

埼玉県作業療法士会 広報部専用メール【[saitama.ot.kouhou@gmail.com](mailto:saitama.ot.kouhou@gmail.com)】まで！



▼次回もおたのしみに！

ええ!?

Facebook

はじめたって

ホント!?



> はい。  
こっそり始めてました。



▶この度、埼玉県作業療法士会は  
**Facebook**をはじめました!

研修会情報を中心に、  
広報誌やその他さまざまなお知らせを  
発信しています(^ ^)/★

ぜひまだフォローしていない方は  
こちらのQRコードからアクセスしてみて  
くださいね♪

